

東北大学大学院情報科学研究科

(1) シンポジウム開催支援経費実績報告書	
タイトル	空間経済・交通に関する国際シンポジウム
(2) 主催者	本研究科人間社会情報科学専攻社会経済情報科学講座， 京都大学経済研究所および経済学研究科（共催）
期 日	17年 6月13日～6月15日（3日間）
会 場	三井アーバンホテル仙台（仙台市青葉区本町）
出席者数（講師・パネリスト等を除く）	35名
講師・パネリスト 等の氏名・勤務先 等	Jan K. Brueckner（カリフォルニア大学イルビン校経済学部教授） Erik T. Verhoef（アムステルダム・フリー大学経済学部教授） Kenneth A. Small（カリフォルニア大学イルビン校経済学部教授） Fu-Chuan Lai（台湾国立台北大学経済学部教授） Anming Zhang（ブリティッシュコロンビア大学ビジネススクール教授） Tschangho John Kim（イリノイ大学アーバ=シャンペン校地域科学部教授） 藤田昌久（京都大学経済研究所教授） 田淵隆俊（東京大学経済学部教授）[ほか国内発表者11名]
(3) 目 的	本シンポジウムは、空間経済学、交通科学をはじめとする学際的研究分野である「地域科学」における国内外の気鋭の研究者を招聘し、本学の研究者とともに研究報告、研究討議を行う貴重な機会を持つことにより、当該分野の発展、特に本学における若手研究者の育成と本学当該研究グループの研究中心地としてのさらなる進展を目指す。
(4) 内 容	シンポジウムでは地域科学にかかわる以下の近年の重要テーマが報告・議論された。新経済地理モデル、地域CGEモデル、都市内立地問題、交通ネットワーク・インフラ整備問題、公共交通料金・混雑規制、地域間格差問題、空間価格競争。
(5) 情報科学研究科 にとっての意義・貢献度	交通/地域経済学およびこれに土木など工学を含めた学際研究領域である地域科学の世界的権威である国内外の研究者を集め、直接研究討議を行うことができたため、本大学関係研究者の研究の活性化が図れた。特に、若手研究者をはじめとする本研究科の研究者の活性化が図れたと考える。また、交通/地域経済学・地域科学に関する研究の世界的メッカの1つであることを国の内外に示すこともできたと考える。

注(1)「シンポジウム開催支援経費」「学際的研究プロジェクト支援経費」より、該当する項目を記載してください。

(2) 当学術企画実施の代表者もしくは責任者及び協力者名を全員記載してください。

(3) 当学術企画を実施した目的を簡潔に記載してください。

(4) 実施された当学術企画の内容を簡潔に記載してください。

(5) 大学院情報科学研究科に対する当学術企画の意義や貢献度を簡潔に記載してください。